

栗駒山の火山活動解説資料（平成 26 年 3 月）

仙台管区気象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、予報事項に変更はありません。

活動概況

- ・噴気など表面現象の状況（図 1）
大柳（山頂の南東約 20km）に設置してある遠望カメラによる観測では、噴気は認められませんでした。
- ・地震や微動の発生状況（図 3、4）
火山性地震は少ない状況で経過しました。
火山性微動は観測されませんでした。
なお、栗駒山周辺では、「平成 20 年（2008 年）岩手・宮城内陸地震」の余震域内で地震活動が続いています。
- ・地殻変動の状況（図 6）
火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

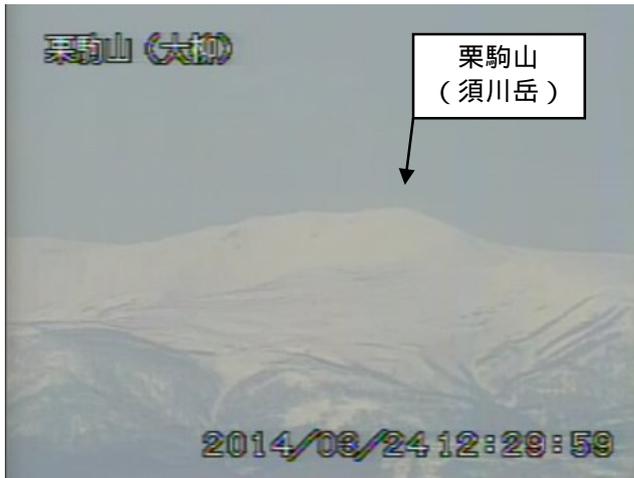


図 1 栗駒山 山頂周辺の状況（3月24日）
大柳（山頂の南東約 20km）に設置してある遠望カメラの映像です。

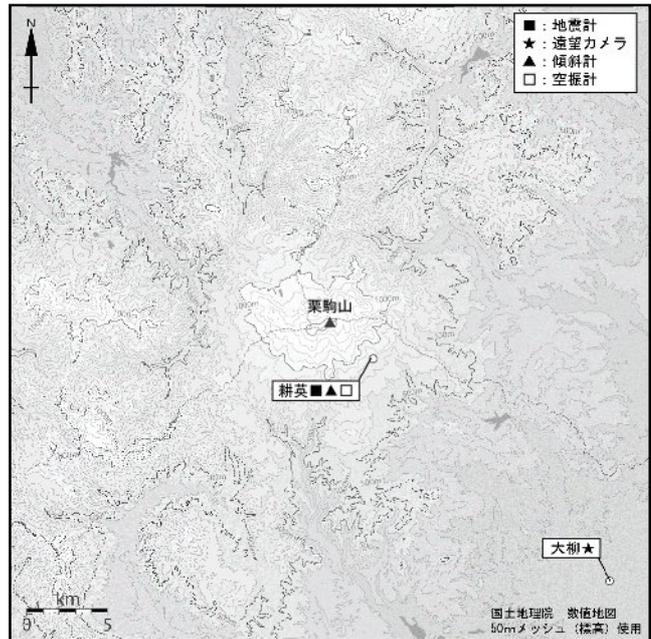


図 2 栗駒山 観測点配置図

小さな白丸()は気象庁の観測点位置を示しています。

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 26 年 4 月分）は平成 26 年 5 月 12 日に発表する予定です。この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学、独立行政法人防災科学技術研究所のデータを利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図 50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平 23 情使、第 467 号）。

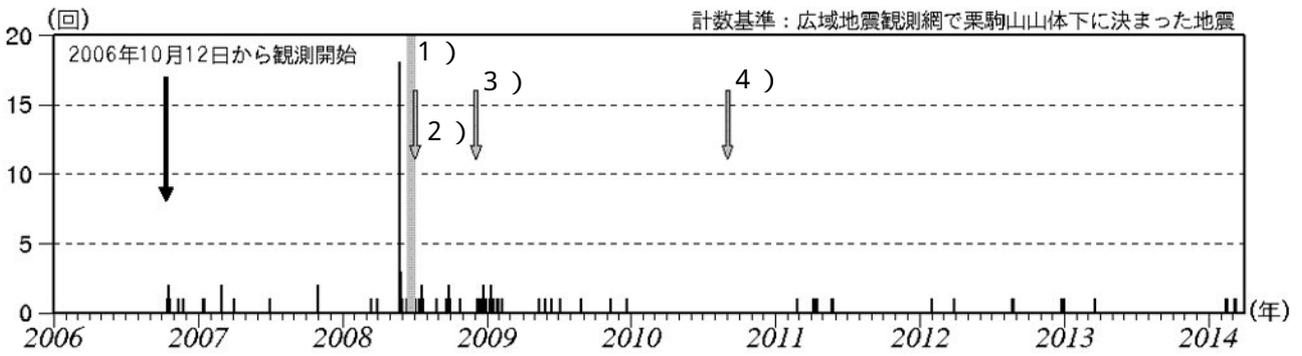


図3 栗駒山 日別地震回数（2006年10月～2014年3月）

- ・2006年10月12日から旧耕英観測点（山頂から南東約4km）で観測を開始しました。
- 1）2008年6月14日から7月2日18時（図の灰色部分）まで岩手・宮城内陸地震の影響により観測不能となっていました。
- 2）2008年7月2日18時から小安（おやす）観測点（山頂から北西約10km）で監視を開始しました。
- 3）2008年12月4日から旧耕英観測点が観測を再開しました。
- 4）2010年9月1日から耕英観測点（山頂から南東約4km、旧耕英観測点とほぼ同じ場所）で観測を開始しました。

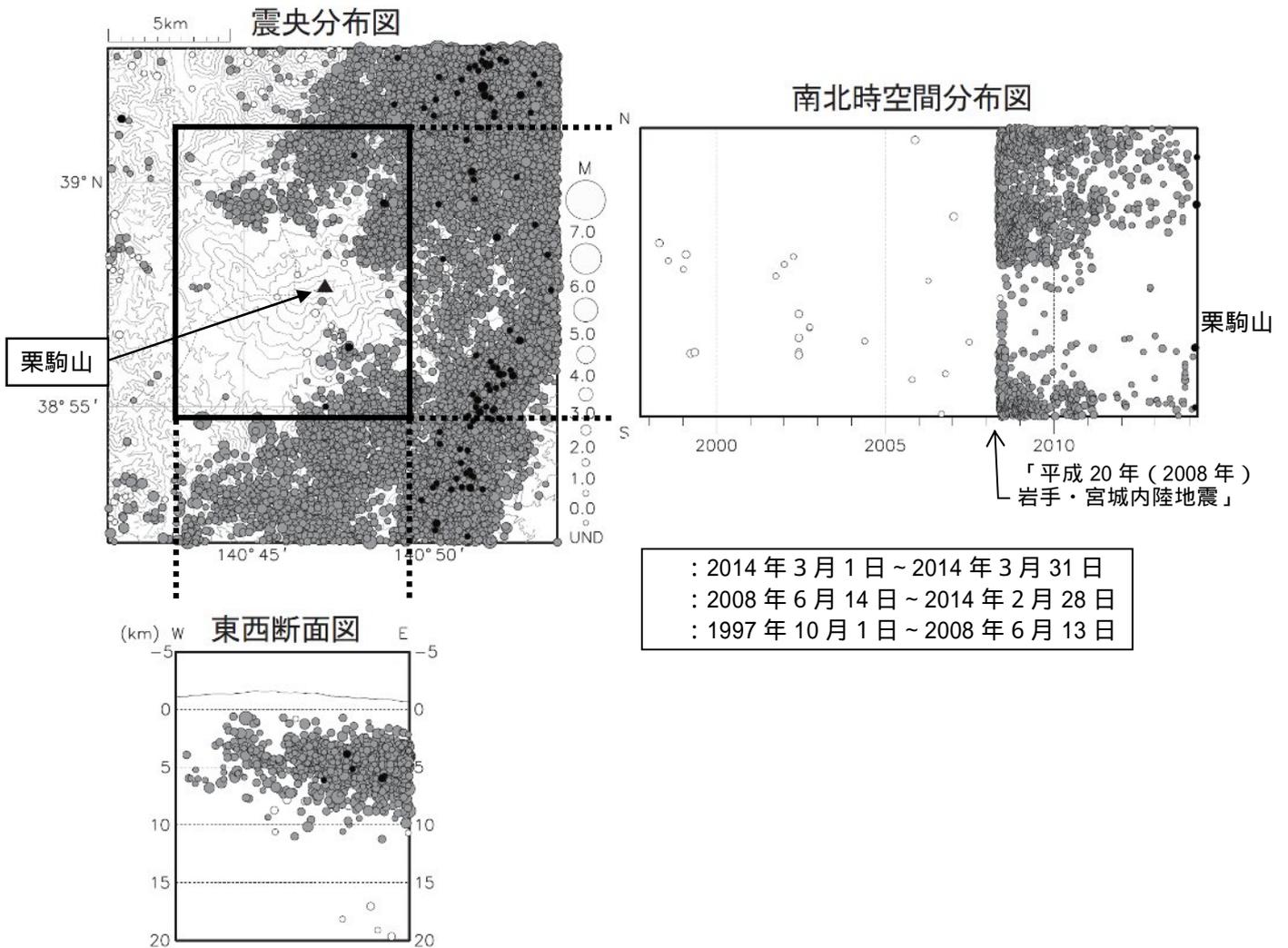


図4 栗駒山 広域地震観測網による栗駒山周辺の地震活動（1997年10月～2014年3月）

- ・2001年10月以降、検知能力が向上しています。
- ・M（マグニチュード）は地震の規模を示します。
- ・図中の一部の震源要素は暫定値で、後日変更することがあります。
- ・「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」以降の活発な余震活動等により、規模の小さな地震については未処理のものがあります。

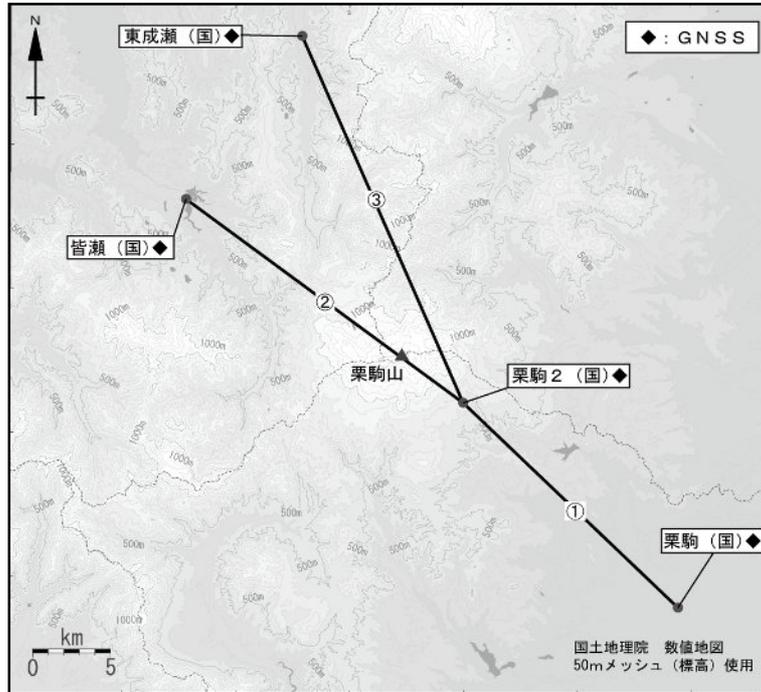


図 5 栗駒山 GNSS¹⁾観測点配置図

1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。
 小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 (国): 国土地理院

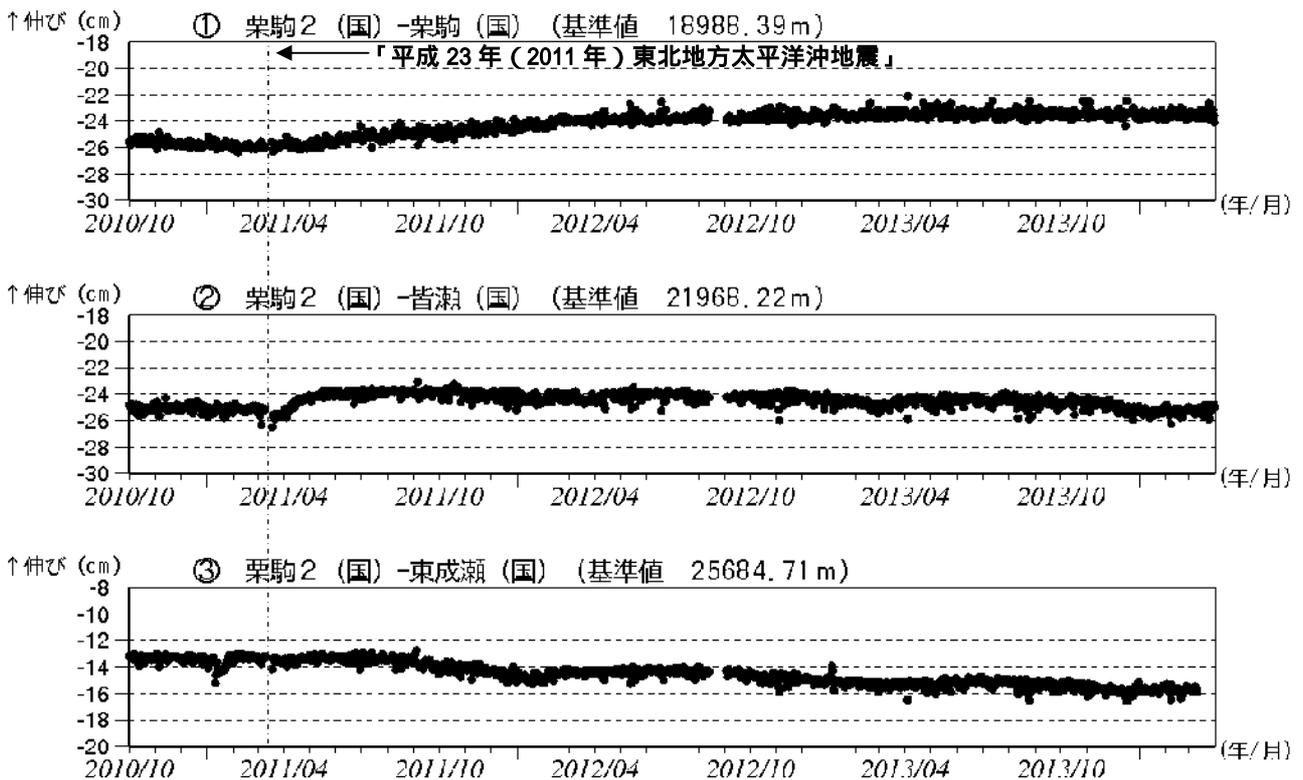


図 6 栗駒山 GNSS 基線長変化図 (2010 年 10 月 ~ 2014 年 3 月)

- ・ 2011 年 3 月 11 日以降の変動は、「平成 23 年 (2011 年) 東北地方太平洋沖地震」による影響であり、火山活動によるものではないと考えられます。
 - ・ 「平成 23 年 (2011 年) 東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。
 - ・ ~ は図 5 の GNSS 基線 ~ に対応しています。
 - ・ グラフの空白部分は欠測を表しています。
 - ・ 各基線の基準値は補正等により変更する場合がありますが、最新の値のみ表示しています。
- (国): 国土地理院